

最新の心房細動治療システム「Affera（アフエラ）システム」を導入しました

当院では、2026年6月より不整脈治療のさらなる充実を目指し、播磨姫路圏域で初めて、最新の3次元マッピング・カテーテルアブレーションシステムであるAffera（アフエラ）システムを導入しました。

Afferaシステムは、心臓内の電気的な情報を高精度に可視化し、心房細動などの不整脈に対するカテーテルアブレーション治療を、より安全かつ効率的に行うことが期待される新しい治療支援システムです。



1本のカテーテルで心房内のマッピングから治療までを一貫して行います

心臓内の電気信号を高精度に解析する「マッピング機能」・不整脈の原因となる部位を治療する「アブレーション機能」を兼ね備えています。そのため、心臓内の状態をより詳細に把握しながら治療を行うことができるため、治療の精度向上が期待されます。

パルスフィールド（電気）と高周波（熱）を使い分けます

Afferaシステムで使用するSphere-9カテーテルは1本のカテーテルで、高解像度マッピング、および、2つの治療エネルギー（パルスフィールドアブレーションと高周波アブレーション）によるアブレーションが使用可能なAll-in-oneカテーテルです。

Afferaシステム導入により、診断から治療までを効率的に行うことができるため、手技の効率化や治療時間短縮による患者さんの負担軽減にもつながることが期待されています。

当院では、最新の医療技術と設備を積極的に導入し、地域の皆さまにより安全で質の高い医療を提供できるよう努めてまいります。

不整脈診療部長（兼）不整脈センター長 寺西 仁

予約センター開設により電話での予約変更受付を開始

当院では、2026年4月20日より予約センターを開設し、外来予約の変更を電話で受け付ける体制を開始しました。これまで予約変更の手続きは来院時を中心に対応していましたが、患者さんの利便性向上を目的に、専用ダイヤルによる受付を導入しました。

予約変更専用ダイヤルでは、平日13時から16時まで対応し、患者さんの診察券や領収書に記載された予約情報を確認しながら手続きを行います。

今後も当院では、患者さんが安心して受診できる環境づくりに努めるとともに、円滑な外来運営を通じて地域医療への貢献を目指してまいります。

予約変更専用ダイヤル: **079-299-0021**
受付時間: 平日13:00~16:00



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

姫路赤十字病院

〒670-8540 兵庫県姫路市下手野1-12-1

電話 079(294)2251(代)

URL: <https://himeji.jrc.or.jp/>



ホームページ

姫路赤十字病院だより No. **53**

発行日 令和8年7月

発行 姫路赤十字病院

発行責任者 院長 岡田 裕之

編集責任者 広報推進室長 五百蔵 智明

姫路赤十字病院だより No. **53**

地域とともに命と健康を守る
— 消化器疾患に挑む内視鏡センター —



内視鏡センター長
兼 第一消化器科部長

高谷 昌宏

Takatani Masahiro



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

姫路赤十字病院



内視鏡センター長
兼 第一消化器科部長
高谷 昌宏
Takatani Masahiro

地域住民を消化器疾患から守る姫路赤十字病院内視鏡センター

姫路赤十字病院内視鏡センターは、消化器診療機能の強化を目的として、新診療棟竣工とともに平成三十年に開設されました。以来、センターで施行する内視鏡件数は増加を続け、令和七年には11,415件と、地域の医療機関の中で最も多くの患者さんに消化器内視鏡を行っています。

日本では消化器癌で亡くなる方は全がん種の約半数を占めており、当センターでは特に消化器がんの診断と治療に力を入れています。最新の内視鏡機器で微細な消化管癌を診断して、早い時期に内視鏡治療を行っています。膵胆道癌については最新の「がんゲノム（遺伝子）診療」を精力的に行っています。

当院はもうすぐ120年の歴史を重ねようとしており、この期間、地域住民の方々に親しまれ、深い信頼関係を築いて来ました。当センターでは消化器疾患から地域住民の命と健康を守るため日々活動をしています。

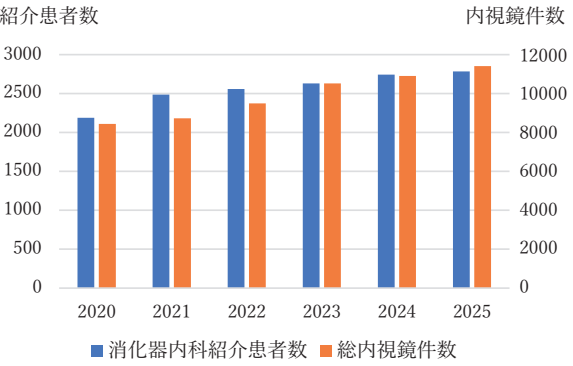
地域における内視鏡センター診療

消化器内科へご紹介いただく患者数の増加とともに内視鏡件数も毎年増加し、おかげさまで多くの地域住民に当院の消化器内視鏡診療を届けることができております(グラフ)。

従来より地域の先生方からの内視鏡のご依頼をFAX申し込みで承ておりましたが、本年8月より上部消化管内視鏡につきましては、FAX予約に加え新たにオンライン予約を開始しました。これにより先生方の診察室からさらに簡便にご予約をしていただけます。

また、緊急の消化器疾患患者さんにつきましても、病院を挙げて最重要として取り組んでおり、当内視鏡センターは24時間いつでも迅速な対応を行います。

消化器内科への紹介患者数と総内視鏡件数



消化管がんに対する内視鏡診療

早期大腸癌に対するESD

大きな病変でも、内視鏡で丁寧に一括切除を行います。

①病変を確認 ②電気メスで丁寧に剥離

③病変切除後 ④組織診断 (赤色部分が上皮内癌)

当センターは早期消化管がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)に積極的に取り組んでおり、兵庫県内有数の治療件数を誇ります。最新の内視鏡機器を駆使した精密検査から、多彩なデバイスを用いた患者さんに負担が少ない治療まで、一貫して受けていただける体制を整えています。最近ではその領域を口腔内や咽頭の病変にも拡大しており、耳鼻咽喉科頭頸部外科と協力して治療を行っています。

進行消化管癌に対しては、内視鏡採取検体でのバイオマーカー検査を通じて、一人ひとりの病状に合った薬物治療につなげています。また、進行大腸癌でイレウスを来す恐れがある患者さんには、大腸ステント留置を行って自宅での手術待機を可能にしています。

大腸癌発生の可能性を有する炎症性腸疾患患者さんに対しても適切な時期に内視鏡でサーベイランスを行っています。

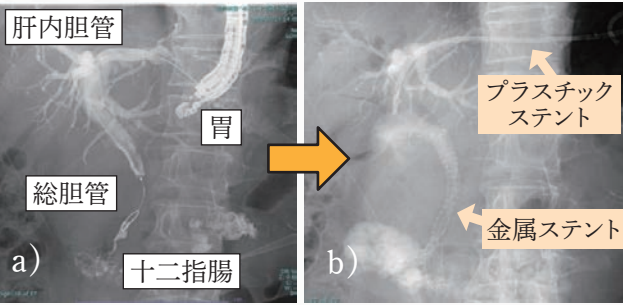
当センターでは消化器内視鏡検査、特に上部消化管内視鏡の際に、希望される患者さんには鎮静剤投与を行って楽に受けていただく事を心がけています。

膵胆道がんに対する内視鏡診療

当センターは膵胆内視鏡としてERCP(内視鏡的胆管膵管造影)と、EUS(超音波内視鏡)関連手技を得意としております。これらの内視鏡手技で、黄疸を来した膵胆道がん患者さんに速やかに胆道ドレナージを行い、患者さんに1日でも早く手術や抗がん剤治療を提供しています。

世界的な膵癌罹患者の増加の中、当院での新規膵癌患者さんは毎年100人を超え増加を続けております。膵癌患者のほとんどは化学療法が必要となりますが、化学療法後には「がんゲノム(遺伝子)診療」が望まれます。当院は西播磨地域では唯一、単独で「がん遺伝子パネル検査」を実施できる「がんゲノム診療連携病院【単独実施可能】」であり、病理検査部の尽力で「がん遺伝子パネル検査」の成功率は全国最高レベルを保っています。内視鏡センターでのがん組織採取から始まり、院内他部門と協働することで、地域の膵癌患者さんに最高の医療を提供しています。

超音波内視鏡を用いた経胃的胆道ドレナージ(EUS-HGS)



十二指腸閉塞のため乳頭からのERCPを行えない膵癌患者に対する処置。a)EUSで経胃的に左肝内胆管枝を穿刺、ガイドワイヤーを挿入し、乳頭を通過させて十二指腸まで留置する。b)ガイドワイヤーに沿わせて、総胆管-十二指腸間には金属ステントを、肝内胆管-胃間にはプラスチックステントを一期的に留置する。黄疸改善後化学療法を開始する。

内視鏡センター長 兼 第一消化器科部長
高谷 昌宏